

(様式1)

職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

令和2年10月5日

①学校名:	武蔵野美術大学大学院 大学院(私立)	②所在地:	東京都小平市小川町1-736				
③課程名:	造形構想研究科造形構想専攻	④正規課程/履修証明プログラム:	正規課程	⑤開設年月日:	2019年4月1日		
⑥責任者:	研究科委員長 篠原規行	⑦定員:	造形構想研究科35名	⑧期間:	2年間		
⑨申請する課程の目的・概要:	<p>造形活動を通じて身に付く、正解のない答えを探究し表現する能力は、今の時代にこそ最も必要とされており、急激な社会変動に柔軟かつ創造的に対応できる構想力を備えた人材の育成が求められている。</p> <p>本専攻では本学がこれまで独自の造形教育と教養教育で培ってきた「創造的思考力」を、ICT、AIなど新技術への十分なリテラシーをもって人の知情意に寄り添う力、クリエイティブな発想や思考で新しい世界を想像する力、そこから現代社会の諸問題に気づきそれを解決する力、ビジネスを変えるために創意工夫する力などに発展させる。さらに徹底したプロジェクト実践型のカリキュラムを展開することで、社会問題の解決や新しい仕組みづくりにおける「クリエイティブリーダーシップ」を身につけ、企業のマネジメントや、企業・スタートアップ、ビジネス戦略といったフィールドで活躍する人材の育成を目指す。</p>						
⑩4テーマへの該当の有無	地方創生(地域活性化)	⑪履修資格:	本学が定める大学院入学資格に準ずる(別紙参照)				
⑫対象とする職業の種類:	ビジネス戦略・社会システム戦略を担う職種、クリエイティブマネジメント、起業やスタートアップの実践						
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) 造形に関する知識・技能、プロジェクト推進のための知識・技術		(得られる能力) 創造的思考力・プロジェクト推進力 リーダーシップ・統合力				
⑭教育課程:	<p>本専攻の学びの基盤となる「造形構想基盤講義」では、多種多様な場で活躍し、社会を牽引するトップクリエイター、起業家、専門家を招き、ディスカッション形式の授業を行う。また「造形構想基盤演習」では、プロジェクト設計を学生自身が行い、課題点の把握・共有、解決を行う演習形式の授業を行う。これにより、研究領域に関する幅広い知見を獲得させる。</p> <p>「造形言語リテラシー実習」「造形言語リテラシー演習Ⅰ/Ⅱ」において制作活動を行い、造形に関する知識・技能を集約し、物事を批判的に捉え課題を発見する力を修得させる。</p> <p>また、本専攻の研究理念に理解を示すパートナー企業と実社会における課題解決を目指すプロジェクト型授業である「産学プロジェクト実践研究Ⅰ/Ⅱ」や、自身の課題意識を端緒として研究活動を行う「国内フィールド研究」「海外プロジェクト研究」を通じて、社会とのコラボレーションを推進するプロジェクト推進力や統合力を身に付けさせる。</p>						
⑮修了要件(修了授業時数等):	造形構想基盤科目から必修6単位を含む20単位以上、研究指導科目10単位、合計30単位以上を取得し、かつ修士作品または修士論文の審査および最終試験に合格すること。						
⑯修了時に付与される学位・資格等:	学位: 修士(造形構想)						
⑰総授業時数:	103 単位	⑱要件該当授業時数:	63単位	該当要件	1,2,3,4	⑲要件該当授業時数/総授業時数:	61%
⑳成績評価の方法:	各科目ごとに成績評価基準(主に、学習成果を発表する講評会、出席など)を定めており、科目の特性に合わせた成績評価を行い、6か月ごとに成績発表を行う。						

②①自己点検・評価の方法:	<p>学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。</p> <p>本学は「自己点検・評価委員会」を設置し、本学の教育研究及び経営管理等の諸活動について現状を的確に把握し、本学の教育理念、教育目標等と照らし合わせ、改善・改革計画を立て実行している。これまで取り組んできた点検・評価活動について、本学webサイトで報告書を公開している。</p> <p>また、第三者評価として、教育研究等における質の信頼性と妥当性を確保するため、大学基準協会の「認証評価」(相互評価)を受審しており、2015年度に同協会の第2期大学評価(認証評価)を受審し、『評価の結果、貴学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2023(平成35)年3月31日までとする。』との評価結果を得た。この認証評価結果及び自己点検・評価報告書については、本学webサイトで公表している。</p>
②②修了者の状況に係る効果検証の方法:	<p>修了者に対し、アンケートや事後調査を実施し、その結果を造形構想研究科委員会にて情報共有することにより、効果を検証する。</p>
②③企業等の意見を取り入れる仕組み:	<p>(教育課程の編成)</p> <p>年度末ないし授業期間終了後に協議を実施し、企業等から教育課程の編成に関して意見聴取を行う。また学生に対して授業アンケートを行い、企業等及び学生からの意見を踏まえたうえで、プログラム運営における課題を共有・改善するために検証を行う。検証は、当該研究科に関する教育研究上の事項について審議する組織体である造形構想研究科委員会において行い、カリキュラム全体について、急激な社会変動に柔軟かつ創造的に対応できる人材の育成のために、科目の充実及び見直しについて、検討を行う。</p> <p>(自己点検・評価)</p> <p>年度末ないし授業期間終了後に協議を実施し、企業等から教育課程の自己点検・評価に関して意見聴取を行う。また学生に対して授業アンケートを行い、企業等及び学生からの意見を踏まえたうえで、プログラム運営における課題を共有・改善するために検証を行う。検証は、研究科委員会において行い、カリキュラム全体について、公表している「身に付けることのできる能力」としっかりと対応しているか、より効果的な授業運営の方法がないかなどの検討を行う。</p>
②④社会人が受講しやすい工夫:	<p>クォーター制の導入ならびに、全ての科目を5限(18時00分)以降の開始とすることで、社会人が受講しやすい環境を整えている。また一部の授業を休日に開講している。</p>
②⑤ホームページ:	<p>(URL) https://ci.musabi.ac.jp/</p>

事務担当者名:	河野 通義	所属部署:	学生支援グループ 市ヶ谷チーム
連絡先:	(電話番号)	03-5206-5311	(E-mail)
		shinsei@musabi.ac.jp	

* パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

* 様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。